



創刊100号記念特集 『milsil』の17年間と 日本人のノーベル賞受賞

Focus 人とロボットのかかわり方を追究し
未来に役立てる

科学冒険隊 模型を作って筋肉の働きを知ろう

生き物たちの不思議な関係 昆虫や鳥、微生物。多様な種と
雌雄で異なる関係を結ぶヒサカキ

かはくレポート 企画展「高山植物
～高嶺の花たちの多様性と生命のつながり～」
にみる高山植物の多様性と現状



メッセージ掲載

National Museum of Nature and Science

「milsil(ミルシル)」について
「milsil(ミルシル)」の「mil(ミル)」は「見てみる」「聞いてみる」「やってみる」の「ミル」。そのような「ミル」から、新たな、そして豊かな「sil(シル=知る)」が得られるでしょう。この雑誌とともに、皆様楽しい「ミルシル」体験をされることを願っています。

C O N T E N T S

- 3 ～通巻100号に寄せて～
国立科学博物館がめざす「科学を文化に」と科学雑誌『milsil』の役割
篠田 謙一 (国立科学博物館長)
- 6 【創刊100号記念特集】
『milsil』の17年間と日本人のノーベル賞受賞
[全体監修] 若林 文高 (国立科学博物館名誉研究員)
- 8 『milsil』に登場していた受賞者たち
- 10 日本と自然科学分野のノーベル賞のかかわり
歴史からみた近年の受賞者の特徴
岡本 拓司 (東京大学大学院総合文化研究科教授)
- 13 日本の素粒子物理学とノーベル賞
九後 太一 (京都大学名誉教授/湯川記念財団代表理事)
- 16 国立科学博物館とノーベル賞
常設展示と企画展
若林 文高 (国立科学博物館名誉研究員)
- 18 Focus 科学者の探究心にせまる
一人とロボットはどう付き合えばよい？
人とロボットのかかわり方を追究し未来に役立てる
飯尾 尊優 (同志社大学文化情報学部准教授)
- 22 チャレンジ!! 科学冒険隊
#99 模型を作って筋肉の働きを知ろう
増田 敦子 (SBC東京医療大学(元 了徳寺大学) 教授) 監修
- 26 生き物たちの不思議な関係 第10回
昆虫や鳥、微生物。多様な種と雌雄で異なる関係を結ぶヒサカキ
辻 かおる (神戸大学大学院理学研究科生物科学専攻准教授)
- 30 かはくレポート
企画展「高山植物～高嶺の花たちの多様性と生命のつながり～」
にみる高山植物の多様性と現状
村井 良徳 (国立科学博物館植物研究部多様性解析・保全グループ研究主幹/筑波実験植物園研究員)
- 34 次号予告/定期購読のお知らせ/編集後記



2014年にノーベル物理学賞を受賞した赤崎勇、天野浩、中村修二が発明した青色発光ダイオードが、LEDによる白色光源を実現し、省エネ照明が世界に普及しました。写真は白色発光の原理を示す装置。
© 国立科学博物館



表紙画像
国立科学博物館の地球館地下3階、「自然科学系ノーベル賞受賞者—科学者の個性と創造性」展示は、日本初の受賞者である湯川秀樹から始まり(左)、物理学賞、化学賞、生理学・医学賞の受賞者とその研究を一人ずつ紹介しています。「milsil」は2008年に創刊し、今号で100号を迎えました(右:過去号の表紙)。当誌のインタビュー後に受賞された山中伸弥先生、吉野彰先生、大村智先生、大隅良典先生(円内:左上から左回り)は、今号のためにメッセージを寄せてくださいました(p.8～9参照)。
展示写真: © 国立科学博物館
円内人物写真: 『milsil』バックナンバーより

～通巻100号に寄せて～

国立科学博物館がめざす「科学を文化に」と科学雑誌『milsil』の役割

国立科学博物館長 しのだ けんいち 篠田 謙一



国立科学博物館が発行する科学雑誌として2008年に創刊された『milsil』は、今号で通巻100号となりました。創刊にあたって『milsil』に与えられたミッション、そして現在までの歩みを振り返るとともに、国立科学博物館が取り組む「科学を文化に」というビジョンの実現にあたって、これからの『milsil』に期待される役割について、篠田謙一館長が語りました。

広報誌ではなく科学雑誌として創刊された『milsil』

『milsil』が創刊されたのは、いまから16年前の2008年です。それまで国立科学博物館の研究者の寄稿で構成されていた『国立科学博物館ニュース』という広報誌が終了し、新たに「科博が発行する科学雑誌」へ大きく転換しました。

その背景の一つには、日本における一般向け総合科学雑誌の出版状況の変化がありました。1980年代初めに盛んに創刊された科学雑誌は、80年代半ばごろをピークに徐々に衰退し始めました。科学の各分野の研究成果を一般向けに紹介する総合科学雑誌においてその傾向は顕著で、1984年には中央公論社の『自然』、続いて『UTAN』、『QUARK』、『OMNI』などが撤退、2000年になると朝日新聞社『科学朝日』の後続誌であった『サイアス』が休刊。現在も残っているのは『Newton』、『日



国立科学博物館長
しのだ けんいち
篠田 謙一

1979年京都大学理学部卒業。博士(医学)(1996年佐賀医科大学)。佐賀医科大学助教授などを経て2003年より国立科学博物館人類研究部に勤務。2021年より現職。専門は分子人類学。